

# 発見かんづま

—北から南から—

## ひのはしら一里塚

江戸時代、長崎街道は、国内唯一の開港場である出島貿易の監督役—長崎奉行が毎年通行する九州に於ける唯一の幕府直轄の街道であり、東海道、山陽道に次いで整備された。

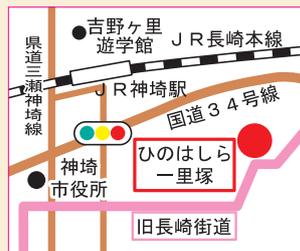
その一つが、一里塚建設、一里、4kmごとの道標で、幕府は江戸に向かって左側に造らせた。約9m四方を石垣で囲み、高さ約5mの築土を行い、塚の最上部には、石の

「いぼ地蔵さん」が祀られている。往時、高さ5m余りの櫛田宮の赤鳥居（緋色の柱）がここに建てられていた。塚の西側に、木製等身大の観音像が鎮座する御堂があり地元の住民が常に生花を供え、毎年、地蔵祭り、千灯籠の行事を行い供養している。長崎街道に当時造られた一里塚で、この塚だけが完全な形で残されている所以であろう。

吉野ヶ里遺跡や九年庵等とリンクして訪れる県外客も増加傾向にあり、塚周辺の駐車場整備を行い、市としても対応を行っている。



ひのはしら一里塚全景



塚頂部のイボ地蔵

## 編集後記

春は何といても桜である。市内には宝珠寺のしだれ桜、日の隈線の桜街道から山頂へ、仁比山公園、脊振の桜街道等々。

桜前線は、通常、南から北へと移動する。しかし、ことしは日の隈山頂や脊振街道が早かった。花芽が分化するには一定の低温が必要である。だから平年は鹿児島より熊本が早い。分化してからは温度が高いほうが開花は早くなる。水稲は以前は九州が最適地だったが、現在は東北、北海道が適地と変わった。まさか、温暖化で九州から桜が開花しなくなるようになしてはならない。ストツプ、ザ、温暖化。

内田、記

委員	委員	委員	副委員長	委員長	広報委員
内田良治	田原和幸	福田清道	内村夏生	白石昌利	